

I 外部評価の目的

本県では農業改良助長法の規定に基づき、県内9ヵ所の農業改良普及課・所に普及指導員を配置し、産業振興計画の実現と地域の重要な農業課題の解決を図るため「普及指導計画」を策定し、1～3カ年間の目標を定め関係機関等と役割分担を図りながら普及指導活動を実施しています。

また、毎月の普及活動情勢報告や四半期毎の普及活動実績書の作成及び中間検討会等による内部評価を通して自らの活動を振り返ることでよりよい普及指導活動の推進に努めてきたところです。

しかしながら、普及活動が高度化・多様化する中、より一層農業者のニーズに対応し、高い成果を創出する普及指導活動とするためには、普及指導計画に定めた成果目標の達成状況及び活動体制等について外部からの幅広く客観的な視点から評価を受け改善に努めるとともに、普及事業への理解促進を図ることが必要となっています。

「協同農業普及事業の運営に関する指針」（平成27年5月11日付、農林水産省告示第1090号）においても、「成果や普及指導活動の体制等について、先進的な農業者や関係機関等を含む委員による外部評価を実施し、その結果を公表するとともに、次年度以降の計画に反映させることを通じて、普及指導活動及びその体制の改善を行う（第5の二の1）」と明記されました。

そこで、外部からの客観的な評価を得て、農業の実態や普及事業の成果等の理解促進を図るとともに次年度以降の普及指導活動の改善に資することを目的に、普及事業に関する外部評価を実施します。

II 外部評価の実施について

1 実施者 高知県農業振興部環境農業推進課長

2 日時 平成27年7月10日(金) 14:30:～17:00

3 場所 高知共済会館 3F 大ホール「桜」
高知市本町5丁目3-20 TEL 088-823-3211

4 参集範囲 各農業振興センター農業改良普及課・所職員
農業革新支援専門員
高知県農業振興部関係職員
中国四国ブロック普及活動調査研究会

5 方法

(1) 平成27年度外部評価対象所属

- ・安芸農業振興センター農業改良普及課
- ・中央西農業振興センター高知農業改良普及所
- ・須崎農業振興センター農業改良普及課

(2) 実施体制

実施者である環境農業推進課長は先進的な農業者、若手・女性農業者、学識経験者、マスコミ等から外部評価委員を選定・依頼し、この事務局を環境農業推進課内に設置します。

外部評価実施に係る必要な庶務は、事務局が実施します。

(3) 平成27年度外部評価委員

- | | |
|----------------------|--------|
| ・高知大学准教授 | 西村安代 氏 |
| ・高知県青年農業士連絡協議会会長 | 前田良一 氏 |
| ・高知県農村女性リーダーネットワーク会長 | 籠谷理香 氏 |
| ・日本農業新聞四国支局次長 | 島村一弘 氏 |

(4) 実施方法及び内容

事務局は対象普及課・所の関係資料等を事前に外部評価委員に送付します。

評価はABCの3段階とします。

外部評価終了後、外部評価委員は評価表を事務局へ提出するものとします。

6 評価結果の活用及び公表

環境農業推進課長は、取りまとめた評価結果の内容を対象普及課・所長に伝えます。

外部評価対象所属の普及課・所長は、評価結果の内容を十分にふまえて、今後の普及活動の推進や運営及び次年度以降の普及指導計画に反映させることとします。

環境農業推進課長は、評価結果を県ホームページ(こうち農業ネット)において年度内に公表します。

ただし、個人情報の保護等の必要がある場合は、適切な処理をするものとします。

Ⅲ 対象所属の概要

1 安芸農業振興センター農業改良普及課・室戸支所

管内市町村	室戸市、安芸市、東洋町、奈半利町、田野町、安田町、北川村、馬路村、芸西村 (2市4町3村)																																
管内J A	J A土佐あき、J A馬路村(2J A)																																
産地の特徴 主な園芸品目	県内最大のナス産地。平成9年に安芸管内で始まった天敵を用いたI P M技術はその後県域へ波及。環境制御技術についても最も取り組みが進んでいる地域。 主な品目はナス、ピーマン類、ミョウガ、ユズ、オクラ。花卉ではブルースター。																																
人員配置 平成25年度 20名 平成26年度 21名 平成27年度 22名	平成27年度職員総数22名 *但し実務経験期間3名。2名長休中。																																
	<table border="1"> <tr> <td>農業改良普及課長</td> <td>1名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>地域営農担当</td> <td>チーフ1名</td> <td>普及指導員3名</td> </tr> <tr> <td>産地育成第1担当</td> <td>チーフ1名</td> <td>環境制御技術普及推進員1名 普及指導員等5名</td> </tr> <tr> <td>〃 第2担当</td> <td>チーフ1名</td> <td>普及指導員等5名</td> </tr> <tr> <td>室戸支所長</td> <td>1名</td> <td>普及指導員3名</td> </tr> </table>			農業改良普及課長	1名		地域営農担当	チーフ1名	普及指導員3名	産地育成第1担当	チーフ1名	環境制御技術普及推進員1名 普及指導員等5名	〃 第2担当	チーフ1名	普及指導員等5名	室戸支所長	1名	普及指導員3名															
農業改良普及課長	1名																																
地域営農担当	チーフ1名	普及指導員3名																															
産地育成第1担当	チーフ1名	環境制御技術普及推進員1名 普及指導員等5名																															
〃 第2担当	チーフ1名	普及指導員等5名																															
室戸支所長	1名	普及指導員3名																															
普及指導計画 の主要な課題 右の他に 個別 5課題 一般23課題 実証ほ15課題	<ul style="list-style-type: none"> ●重点プロジェクト課題 <ol style="list-style-type: none"> 1 環境制御技術導入による施設園芸産地の強化(チーム員15名) ●総合課題 <ol style="list-style-type: none"> 1 部会を中心としたまとまりのあるナス産地への再構築(チーム員14名) 2 環境保全型農業の推進(チーム員12名) 3 集落営農の推進及び普及(チーム員5名) 4 新たな担い手の確保・育成(チーム員10名) 																																
職員の資質向 上の取り組み 状況 国及び県段階 研修派遣状況	<ul style="list-style-type: none"> ●国段階研修 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成26年度</th> <th>平成27年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新規採用普及職員研修(1年目)</td> <td>1名</td> <td>1名</td> </tr> <tr> <td>実務能力習得研修(人材育成)</td> <td></td> <td>1名</td> </tr> <tr> <td>経営分析研修</td> <td></td> <td>1名</td> </tr> <tr> <td>集落営農組織化・運営支援研修</td> <td>1名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6次産業化支援研修</td> <td>1名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>新技術新品種コーディネート研修(果樹)</td> <td>1名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>中国四国ブロック提案型研修(2年目)</td> <td></td> <td>1名</td> </tr> </tbody> </table> ●県段階研修 <table border="1"> <tbody> <tr> <td>派遣研修 新技術習得コース</td> <td>1名</td> <td>1名</td> </tr> <tr> <td>〃 マーケティングコース(果樹)</td> <td>1名</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>この他に、県内専門技術高度化研修、自主企画研修への参加多数。 職場段階では職場全員研修、新任者対象O J Tなどを実施。</p>				平成26年度	平成27年度	新規採用普及職員研修(1年目)	1名	1名	実務能力習得研修(人材育成)		1名	経営分析研修		1名	集落営農組織化・運営支援研修	1名		6次産業化支援研修	1名		新技術新品種コーディネート研修(果樹)	1名		中国四国ブロック提案型研修(2年目)		1名	派遣研修 新技術習得コース	1名	1名	〃 マーケティングコース(果樹)	1名	
	平成26年度	平成27年度																															
新規採用普及職員研修(1年目)	1名	1名																															
実務能力習得研修(人材育成)		1名																															
経営分析研修		1名																															
集落営農組織化・運営支援研修	1名																																
6次産業化支援研修	1名																																
新技術新品種コーディネート研修(果樹)	1名																																
中国四国ブロック提案型研修(2年目)		1名																															
派遣研修 新技術習得コース	1名	1名																															
〃 マーケティングコース(果樹)	1名																																

2 中央西農業振興センター高知農業改良普及所

管内市町村 管内 J A	高知市（1市） J A高知市、J A高知春野（2 J A）																				
産地の特徴 主な園芸品目	県下最大の穀倉地帯。野菜では県内最大のキュウリ及び露地ショウガの産地。沿岸地帯を中心にユリ、グロリオサなど県下最大級の花卉産地。果樹ではユズ、新高梨のほか、山間部では四方竹など特色ある品目の産地。																				
人員配置 平成25年度 17名 平成26年度 18名 平成27年度 17名	平成27年度職員総数17名 *但し実務経験期間3名。短時間勤務1名。 <table border="1"> <tr> <td>農業改良普及所長</td> <td>1名</td> </tr> <tr> <td>地域営農担当</td> <td>チーフ1名 普及指導員 4名</td> </tr> <tr> <td>産地育成第1担当</td> <td>チーフ1名 普及指導員等4名</td> </tr> <tr> <td>〃 第2担当</td> <td>チーフ1名 普及指導員等5名</td> </tr> </table>	農業改良普及所長	1名	地域営農担当	チーフ1名 普及指導員 4名	産地育成第1担当	チーフ1名 普及指導員等4名	〃 第2担当	チーフ1名 普及指導員等5名												
農業改良普及所長	1名																				
地域営農担当	チーフ1名 普及指導員 4名																				
産地育成第1担当	チーフ1名 普及指導員等4名																				
〃 第2担当	チーフ1名 普及指導員等5名																				
普及指導計画 の主要な課題 右の他に 個別15課題 一般21課題 実証ほ20課題	<ul style="list-style-type: none"> ●重点プロジェクト課題（中央西の重点プロジェクト課題に含まれる） <ol style="list-style-type: none"> 1 環境制御技術導入による施設園芸産地の強化 ●総合課題 <ol style="list-style-type: none"> 1 キュウリの産地維持と生産安定（チーム員7名） 2 地域特性に応じた集落営農組織の育成（チーム員9名） 3 担い手の確保・育成（チーム員6名） 																				
職員の資質向 上の取り組み 状況 国及び県段階 研修派遣状況	<table border="1"> <thead> <tr> <th>●国段階研修</th> <th>平成26年度</th> <th>平成27年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新規採用普及職員研修（1年目）</td> <td>1名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実務能力習得研修（人材育成）</td> <td></td> <td>1名</td> </tr> <tr> <td>農村地域マネジメント研修</td> <td></td> <td>1名</td> </tr> <tr> <td>新技術新品種コーディネーター研修（果樹）</td> <td>1名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>中国四国ブロック提案型研修（2年目）</td> <td></td> <td>1名</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ●県段階研修 <table border="1"> <tr> <td>派遣研修 新技術習得コース</td> <td>1名</td> </tr> </table> <p>この他に、県内専門技術高度化研修、自主企画研修への参加多数。 職場段階では職場全員研修、新任者対象OJTなどを実施。</p>	●国段階研修	平成26年度	平成27年度	新規採用普及職員研修（1年目）	1名		実務能力習得研修（人材育成）		1名	農村地域マネジメント研修		1名	新技術新品種コーディネーター研修（果樹）	1名		中国四国ブロック提案型研修（2年目）		1名	派遣研修 新技術習得コース	1名
●国段階研修	平成26年度	平成27年度																			
新規採用普及職員研修（1年目）	1名																				
実務能力習得研修（人材育成）		1名																			
農村地域マネジメント研修		1名																			
新技術新品種コーディネーター研修（果樹）	1名																				
中国四国ブロック提案型研修（2年目）		1名																			
派遣研修 新技術習得コース	1名																				

3 須崎農業振興センター農業改良普及所

管内市町村 管内 J A	須崎市、中土佐町、津野町、梶原町（1市、3町） J A土佐くろしお、J A津野山、J A四万十（3 J A）																		
産地の特徴 主な園芸品目	県内最大のハウスミョウガ産地。海岸平坦部の主要な園芸品目はミョウガ、キュウリ、ピーマン、シシトウ、ニラ、インゲン、オクラ、クジャクアスターなど。山間地域では米ナス、小ナス、シシトウ、ハウスミョウガ、茶等が栽培されている。																		
人員配置 平成25年度 15名 平成26年度 15名 平成27年度 15名	平成27年度職員総数15名 *但し実務経験期間3名。 <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>農業改良普及課長</td> <td>1名</td> </tr> <tr> <td>地域営農担当</td> <td>チーフ1名 普及指導員等3名</td> </tr> <tr> <td>産地育成第1担当</td> <td>チーフ1名 普及指導員等4名</td> </tr> <tr> <td>〃 第2担当</td> <td>チーフ1名 環境制御技術普及推進員1名 普及指導員 3名</td> </tr> </table>	農業改良普及課長	1名	地域営農担当	チーフ1名 普及指導員等3名	産地育成第1担当	チーフ1名 普及指導員等4名	〃 第2担当	チーフ1名 環境制御技術普及推進員1名 普及指導員 3名										
農業改良普及課長	1名																		
地域営農担当	チーフ1名 普及指導員等3名																		
産地育成第1担当	チーフ1名 普及指導員等4名																		
〃 第2担当	チーフ1名 環境制御技術普及推進員1名 普及指導員 3名																		
普及指導計画 の主要な課題 右の他に 個別 3課題 一般14課題 実証ほ19課題	<ul style="list-style-type: none"> ●重点プロジェクト課題 <ol style="list-style-type: none"> 1 環境制御技術導入による施設園芸産地の強化（チーム員須崎8名、高南5名） ●総合課題 <ol style="list-style-type: none"> 1 次世代につづく「くろしお産地」の維持・発展のための総合支援（チーム員10名） 2 津野山地域の維持・発展のための農業への総合支援（チーム員9名） 3 中山間地域における地域営農システムの推進（チーム員6名） 4 新規就農者確保・育成体制の整備促進（チーム員13名） 																		
職員の資質向 上の取り組み 状況 国及び県段階 研修派遣状況	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>●国段階研修</th> <th>平成26年度</th> <th>平成27年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新規採用普及職員研修（1名）</td> <td>1名</td> <td>1名</td> </tr> <tr> <td>マーケティングⅡブランド化支援研修</td> <td></td> <td>1名</td> </tr> <tr> <td>中国四国ブロック研修（2年目）</td> <td></td> <td>1名</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>●県段階研修</th> <th>平成26年度</th> <th>平成27年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>派遣研修 新技術習得コース</td> <td>1名</td> <td>1名</td> </tr> </tbody> </table> <p>この他に、県内専門技術高度化研修、自主企画研修への参加多数。 職場段階では職場全員研修、新任者対象OJTなどを実施。</p>	●国段階研修	平成26年度	平成27年度	新規採用普及職員研修（1名）	1名	1名	マーケティングⅡブランド化支援研修		1名	中国四国ブロック研修（2年目）		1名	●県段階研修	平成26年度	平成27年度	派遣研修 新技術習得コース	1名	1名
●国段階研修	平成26年度	平成27年度																	
新規採用普及職員研修（1名）	1名	1名																	
マーケティングⅡブランド化支援研修		1名																	
中国四国ブロック研修（2年目）		1名																	
●県段階研修	平成26年度	平成27年度																	
派遣研修 新技術習得コース	1名	1名																	

IV 事前配布資料

別添1「事前配布資料」参照

V 対象課題の報告書

別添2（安芸）、別添3（高知）、別添4（須崎）参照

VI 外部評価の結果

1 外部評価全体について

(外部評価委員のご意見)

事前配布資料では、最終年度の須崎、単年度で始める中央西、3カ年重点の安芸がそれぞれ、これまでの実績や、これからの計画を発表すると思っていたが、実際の発表会では、全ての事例でこれまでの実績の発表で、上記の流れに沿っての評価が難しかった。

・特に、中央西と安芸については、取り組みについては非常に素晴らしいと評価するが、今回の外部評価の主旨及び項目に照らすと、もっと目標達成状況を意識した報告内容とすべきであると感じた。

・実績を評価する須崎の事例においても、事前に提供された普及計画概要の主な目標には触れられず、100億円が目前と発表し、普及計画概要には触れていない。

・来年以降の課題として、これから動き出す単年度や3カ年重点を評価する場合、7月時点で変更することはありえず、今回の外部評価の評価項目を続けるとするならば、年度が始まる前に外部評価する必要があると考えられる。

・また実績を外部評価の場合、現状と目標が比較できるので評価はある程度できると考えられるが、基本的に、実績と目標の乖離を評価するため、それで何を外部評価するのか、よくわからないのが課題となろう。

・外部評価で何を評価するのかをきちんと決める必要があると感じた。

2 対象所属別の評価結果

対象所属	安芸農業振興センター農業改良普及課		
課題名	環境制御技術導入による安芸地域の施設園芸の活性化 (発表者：新田益男)【平成27年度普及指導計画 重点プロジェクト課題】		
評価項目	評価の視点	評価(注)	評価の理由・ご意見等
ア 普及指導 活動の計 画・課題 設定	課題の現状分析・把握は 十分か？ 対象の選定は適切か？	A 3 B 1 C 0	●目標の一つが所得の向上であるので、収量の現 状だけでなく、所得の現状も示してほしい。
	課題の重要性、必要性は 高いか？ 目標の設定、評価指標は 適正か？	A 3 B 1 C 0	●ナスは重要品目であり、重要性は高い。 ●コスト面から環境制御技術を導入できる生産 者はほんの一握りではないか？
イ 普及活動 の経過と 体制	活動方法と時期は適切 か？ 効果的な活動体制か？	A 4 B 0 C 0	●一部の農家の参加だけのように思われた。設備 投資困難な農家への取り組みも必要ではないか と思う。
	関係機関との連携・役割 分担はできているか？	A 3 B 1 C 0	●J Aとの連携は本当にできているのか？ J A 職員の意識はどうか？
ウ 普及指導 活動の成 果	普及活動の寄与により目 標達成はできたか？ 適正な内部評価ができて いるか？	A 2 B 2 C 0	●投資金額と所得の関係を知りたい。設備投資し た以上の成果が得られているか？ ●成果はこれから。
	成果の波及及び情報伝達 はできているか？	A 4 B 0 C 0	●L I N Eを使った情報伝達はできている。最初 に示された収量分布がどのように変化したのか 知りたい。
総合所見(全体の感想、ご意見を自由に記載してください)			
<ul style="list-style-type: none"> ●C O 2が必要であることが分かったが、発生機を導入できない農家への指導として土壌からの発生するC O 2はどれくらいあるのか？ ●C O 2を補う事でうす曇りでも光合成ができるのではないか？収量アップにつながる。 ●産地の現状と問題点はわかりやすかったが、実際の栽培現状や課題が分かりにくい。 ●環境制御技術は必要であるが、コスト面もあるのであまり設備投資をしないような研究等にも取り組んでほしい。 ●最終的には個々の農家の所得向上が重要であるのでその点がどうなったか？ ●農家は技術だけでは成り立たない。もっと「経営」にも目を向けてほしい。 ●日本一のナス産地の産地作りとして、先進的な取り組みづくりを評価する。評価項目のア、イ、ウとも適切。体制づくりはもちろん、農家レベルでわかる生育診断手法づくりなど他産地が参考になる優良事例だろう。 			

(注) 評価ABCの内訳。A3とは3名の評価委員がAと評価したことを示す。

A：概ね適切

B：部分的に検討を要する

C：見直しが必要

対象所属	中央西農業振興センター高知農業改良普及所		
課題名	「JA高知市〇朝生姜生産組合の貯蔵ショウガ腐敗対策」を構築した普及活動 (発表者：吉本良太)【平成27年度普及指導計画 個別課題2】		
評価項目	評価の視点	評価	評価の理由・ご意見等
ア 普及指導 活動の計 画・課題 設定	課題の現状分析・把握は 十分か？ 対象の選定は適切か？	A 3 B 1 C 0	●十分であるし適切であった。 ●問題の要因の体系図を提示するなど良かったが、項目が多いのでその中でも大小区別するなどもう少し絞るか、平成20年度以前との違いを分析すべきではないかと思った。
	課題の重要性、必要性は 高いか？ 目標の設定、評価指標は 適正か？	A 4 B 0 C 0	●良い。 ●貯蔵性の向上は売り上げにもつながるため本研究の必要性は高い。
イ 普及活動 の経過と 体制	活動方法と時期は適切 か？ 効果的な活動体制か？	A 4 B 0 C 0	●様々な視点から原因究明していて良かった。
	関係機関との連携・役割 分担はできているか？	A 4 B 0 C 0	●多分野との連携ができていた。 ●誰からどのような強みのある強力を得るかが大切。
ウ 普及指導 活動の成 果	普及活動の寄与により目 標達成はできたか？ 適正な内部評価ができて いるか？	A 4 B 0 C 0	●腐敗発生の減少が認められたので目標達成したと思われる。
	成果の波及及び情報伝達 はできているか？	A 4 B 0 C 0	●組合以外の農家へも成果を普及してほしい。
総合所見（全体の感想、ご意見を自由に記載してください）			
<ul style="list-style-type: none"> ●貯蔵が難しかったが解決できてよかった。 ●結果だけでなく、目標まで出せると良かった。 ●原因が複雑で特定の要因を突き止めることは難しいかと思われるが、最後に腐敗を抑制できる貯蔵方法をまとめて提示していただければわかりやすかったと思う。併せて貯蔵の注意点も示してほしい。 ●普及員の努力が感じられ、遠回りしたかも知れませんが研究成果が出て良かったと思います。 ●粘り強く解決できているのではないか。 ●産地の大きな課題であるショウガの貯蔵について、その原因を長年かけて突き止めた点が大きく評価できる。問題解決に向けて、産学官の連携で克服した点も興味深い。ア、イ、ウとも適切。 			

対象所属	須崎農業振興センター農業改良普及課		
課題名	次世代につづく「くろしお産地」の維持・発展のための総合支援 (発表者：山崎浩実)【平成27年度普及指導計画 総合課題1】		
評価項目	評価の視点	評価	評価の理由・ご意見等
ア 普及指導 活動の計 画・課題 設定	課題の現状分析・把握は 十分か？ 対象の選定は適切か？	A 3 B 1 C 0	●何が課題かわかりにくい。
	課題の重要性、必要性は 高いか？ 目標の設定、評価指標は 適正か？	A 3 B 1 C 0	●100億円突破では少々あいまい。 ●JAが主体となっているので、JAに入っていない農家へのサポートはないのか心配。
イ 普及活動 の経過と 体制	活動方法と時期は適切 か？ 効果的な活動体制か？	A 4 B 0 C 0	
	関係機関との連携・役割 分担はできているか？	A 4 B 0 C 0	
ウ 普及指導 活動の成 果	普及活動の寄与により目 標達成はできたか？ 適正な内部評価ができて いるか？	A 4 B 0 C 0	
	成果の波及及び情報伝達 はできているか？	A 3 B 1 C 0	
総合所見（全体の感想、ご意見を自由に記載してください）			
<ul style="list-style-type: none"> ●普及員とJAとの連携がとれていて良かった。 ●素晴らしい地域になりつつあることが分かった。 ●低コストのための取り組みはいろいろ紹介されて分かったが、収量増加の取り組みが分かりにくかった。 ●目標収量が達成できなかった農家を分析することで農家全体的な収量向上につながるのではないかと感じた。 ●全体の売り上げも重要あるが、個々の農家の所得も重要と思われる。そういった意味では低コスト対策の取り組みは良いと思う。 ●目標達成できなかった農家を大切にしてほしい。 ●多くの産地で、産地の縮小が大きな課題となる中、JAの販売金額が右肩上がり、産地が盛り上がっている優良事例で大変評価できる。JAと農業指導センターで役割分担している点が評価できる。ア、イ、ウとも適切。 			

Ⅶ 今後の改善について

外部評価の結果及び外部評価委員からのご意見を踏まえ、平成28年度以降の普及指導活動(外部評価・内部評価の実施方法、普及指導計画、資質向上の取組等)について改善に努めます。

主な改善案

項目	平成27年度【現状】	平成28年度以降【改善案】
外部評価の実施	試行的に実施。	本格実施。 新たな「高知県普及活動外部評価実施要領」を策定し外部評価の対象課題や目的をより明確にする。
外部評価対象所属	3所属 H27(安芸、高知、須崎)	3所属 H28(中央東、中央西、高南) H29(嶺北、高吾、幡多) H30(安芸、高知、須崎)
外部評価対象課題の選定方法	各普及課・所が選定。 当該年度(H27)の普及指導計画書から選定。	各普及課・所と環境農業推進課で協議し選定する。 当該年度を含む過去3ヶ年で取組んだ重要な課題の中から選定する。当該年度が取組初年度となる新規課題は除外する。
外部評価委員の構成と人数	学識経験者 1名 女性リーダー 1名 青年農業士 1名 マスコミ 1名 計4名	以下の分野に期待される視点を踏まえて評価できる7名程度の体制とする。 ・先進的な農業者 ・若手・女性農業者 ・農業関係団体 ・消費者 ・学識経験者 ・マスコミ ・民間企業
外部評価開催時期と会場	7月10日に実施。 高知市1会場に集合。	7月上～中旬頃に実施予定。 高知市1会場に集合。
外部評価実施時間	2時間30分 評価する時間が短い	4時間～6時間とする。 質問や評価の時間を十分にとる。
資質向上の取組	外部評価委員から、高度な技術普及に関する活動は良くできているが、更に経営の視点が必要との指摘があった。	技術と経営の視点を併せ持った総合指導力の高い人材育成を図るため、入庁後、4～6年目の全職員を対象とした「経営」基礎研修を実施する。

<p>内部評価の充実・強化</p>	<p>年度末は活動実績書の提出のみで十分な内部評価は実施できていない。</p>	<p>外部評価の対象となる3所属については、年度末の活動実績に対する内部評価を農業革新支援専門員等を交えて実施する。そのうえで、各所属の外部評価対象課題を選定する。</p>
<p>普及指導計画・普及指導活動の見直し</p>	<p>外部評価委員から、目標を意識した活動を実施するよう指摘があった。 また、目標達成率で活動の評価するため達成容易な低い目標を設定しがちとなり活動内容が委縮する傾向にある。</p>	<p>目標を意識した活動となるよう計画作成段階から内部評価の機会をとらえて、農業革新支援専門員等が引き続き指導を行う。 成果指標だけでなく活動指標を加えるなど普及指導員のチャレンジや創意工夫を評価できる仕組みを検討する。 また、経営の視点を持った活動となるよう、新技術の経営評価や家族経営体の経営改善支援等の取組を普及指導計画に位置付ける。</p>
<p>地区農業改良普及推進協議会議の充実・強化</p>	<p>年2回実施。 地区の先進的な農業者や関係機関が推進員となっており、外部評価に準ずる機能を有する重要な会議となっている。 実施主体は農業改良普及課・所であり農業革新支援専門員や主務課の参加は無い。また、公表等は特に行っていない。</p>	<p>年2回実施。 農業革新支援専門員等が参加することで、地区協議会の情報を共有する。 引き続き、推進協議会議の内容を今後の普及指導活動の改善につなげる。 また、会議内容を各農業改良普及課・所がHPへ掲載し広く情報発信を行う。</p>